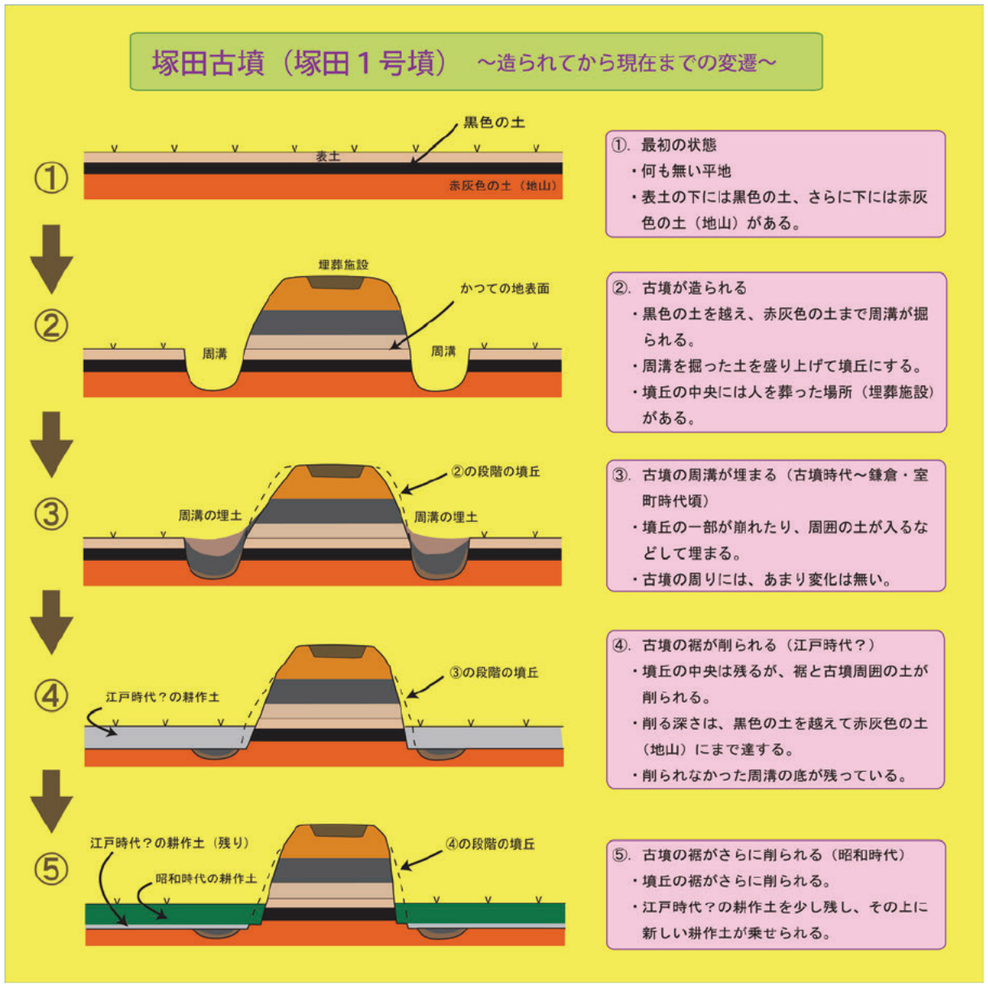

事がはじまることが多くあります。それでも、今回は様々な方からの協力を得て、何とか工事前に発掘調査現場を公開することができました。

今回の現地説明会では、このような狭い調査区からも大きな成果が上がること、そして、子どもたちが学校へと通う道の下にも「いにしえのロマン」がひそんでいることを知っていただければと思います。

調査遺跡名	塚田古墳群・田丸道遺跡
所在地	三重県度会郡玉城町妙法寺・中楽
原因事業名	平成 22 年度担い手育成基盤整備事業
調査実施機関	三重県埋蔵文化財センター

塚田古墳群・田丸道遺跡

～度会郡玉城町妙法寺・中楽～

現地説明会資料

２０１０年１２月２３日
三重県埋蔵文化財センター

【はじめに】

塚田古墳群・田丸道遺跡は、度会郡玉城町の妙法寺地区と中楽地区に広がる遺跡です。遺跡の南西約１㎞には田丸城跡（県史跡）があり、その周囲には今なお当時の面影を残す城下町が広がっています。田丸城とその城下町は、南北朝時代（今から約 650 年前）に北畠氏（後の伊勢国司・戦国大名）によって整備がはじまり、織田信雄（織田信長の次男）による統治を経て、江戸時代には紀州藩田丸領の中心となりました。田丸は伊勢参宮街道沿いということもあり、室町時代以降、明治・大正時代に至るまでたいへんな賑わいをみせたところです。

ところで、城下町の時代よりもはるか昔の玉城町はどんなところだったのでしょうか。今回発掘調査した塚田古墳群の時代（今から約 1,500 年前）の玉城町には、たくさんの古墳がありました。塚田古墳群の発掘調査から、古墳時代の玉城町へと思いを馳せてみましょう。

図１　塚田古墳と周辺の古墳群

【塚田古墳群】

妙法寺地区から有田小学校へと通う子どもたちの通学路途中に、こんもりとした小山があります。高さ約３ｍほどのこの小山は、「塚田古墳」という古墳です。玉城町が『玉城町史』という本を作るときには、ここで須恵器のかけらが採集されました。その須恵器をもとに、この古墳は「古墳時代後期の古墳だろう」と考えられました。

また、『玉城町史』を作った人は、古い時代の本に書いてあることも調べました。『有田村史』

という本には、塚田古墳のまわりには「マムシ塚」、「ドンドハ塚」、「梅ノ木塚」などの「塚」があり、そこからは土器の破片が見つかっていると書かれていました。「塚」というのは、おそらく古墳のことだと考えられます。これらの記述から、今に残る塚田古墳の付近には少なくとも３基以上の古墳があったことがわかります。

この記述と、今回の調査で見つかった新たな古墳の存在から、ここではこれらの古墳をまとめて「塚田古墳群」とします。そして、塚田古墳を「塚田１号墳」、今回の調査で見つかった新たな古墳を「塚田２号墳」と呼んでおきます。

写真１　塚田１号墳と２号墳

【調査の成果】

今回の発掘調査は、小学生の通学路となっている道の下にパイプライン（水道）を通すための工事に先だって行いました。工事で壊されるところを発掘していますので、今に残る塚田古墳（１号墳）の墳丘（古墳の盛り土）はそのまま残っています。

塚田古墳（１号墳）　調査の結果、塚田古墳（１号墳）の「周溝」が見つかりました。周溝とは、古墳の外側に巡らされた溝のことです。ほんの一部分しか見つかってはいませんが、周溝は円形に巡っていることがわかりました。そのため、塚田古墳（１号墳）は円墳で、円の直径からおよそ 20 mの規模であることがわかりました。周溝からは、土師器の破片が少し見つかっただけでしたので、残念ながら古墳の正確な時期はわかりませんでした。

写真２　出土した紡錘車

なお、見つかった周溝の内側には、小さな段がありました。この段は、古墳を造る時にできたものではなく、後の時代にできたことがわかりました。塚田古墳（１号墳）の周りには田んぼが広がっています。おそらく、塚田古墳（１号墳）をできるだけ残しながら田んぼを造っていったため、このような段ができたのだと考えられます（図解参照）。

塚田２号墳　塚田古墳（１号墳）の南から、別の古墳が見つかりました。この古墳は墳丘が完全に削り取られ、周溝だけになっていました。周溝は円形に回るため、１号墳と同じ円墳で、直径も１号墳とほぼ同じ 20 mの規模です。

塚田２号墳の周溝からも、古墳の時期を示すような土器は残念ながら見つかりませんでした。しかし、近くの南北朝時代頃の坑から、石製の紡錘車が見つかっています（写真２）。紡錘車とは、糸を作る（紡ぐ）ときに使う道具のひとつです。この紡錘車は古墳時代後期頃のものなので、もともとは２号墳にあった遺物の可能性が高いと考えられます。紡錘車は、古墳に葬られた人の棺や墓坑の中に供えられた事例が他の古墳で確認されていますので、この紡錘車もそういった使われ方をしたものが、古墳が壊された後で南北朝時代頃の坑に紛れ込んだものと考えられます。

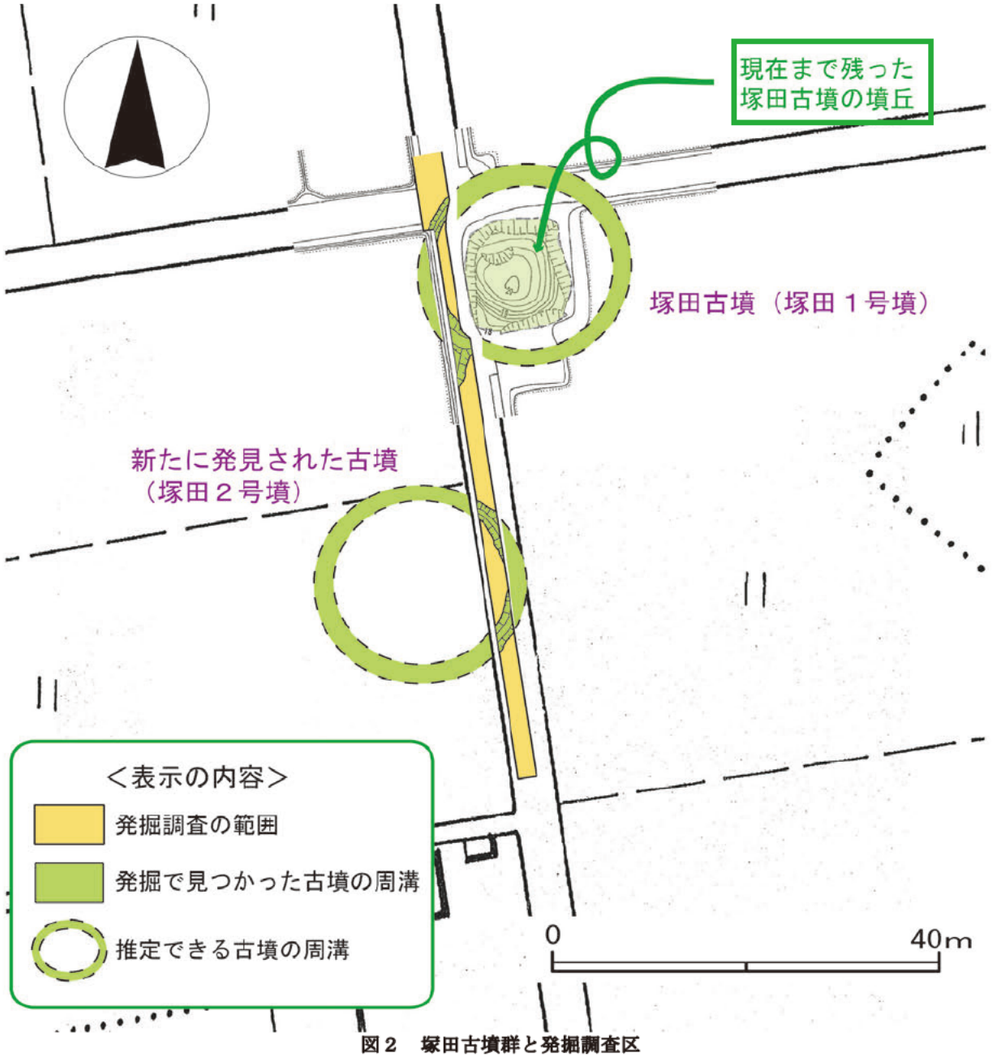

図２　塚田古墳群と発掘調査区

丸道遺跡　塚田古墳群が造られた後、この付近は人々の生活の場となる集落となりました。見つかった土器は、奈良時代（今から約 1,200 年前）のものや鎌倉時代・南北朝時代（今から 800 ～ 650 年前）のものがあります。建物跡は見つかっていませんが、この時期の集落跡は、今の妙法寺地区の集落の方に広がっているものと考えられます。

【おわりに】

今回の発掘調査は、通学路の下を掘っただけの、たいへん狭く小さなものでした。しかし、子どもたちがいつも目にしている塚田古墳（１号墳）の本当の大きさが分かったこと、そして、これまで知られていなかった古墳（２号墳）が道の下から見つかったことなど、大きな成果がありました。

このような狭く小さな発掘調査は、ほとんどが工事に追われた時間の無いなかで実施しています。そのため、地元の皆様などに現地を見ていただく時間がほとんど無いまま、工